

## 令和5年度人と自然の博物館協議会協議概要

日時 : 令和6年3月1日 10:00~11:30

場所 : 県立人と自然の博物館 大セミナー室

議長) 令和5年度のひとはく活動内容について説明をお願いします。

—令和5年度ひとはくの活動内容、新たな中期目標とその達成状況、地域と連携した屋外空間における博物館活動について報告—

議長) 今報告事項として3つほど説明をしていただきました。相互に非常に関連するものがございますので、ここで報告事項に関して、質疑を行いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご質問ご意見等お願いできたらありがたいです。いかがでしょう。

委員) オハナフェスタは、私は何うことができなかつたのですが、拝見してすごくいい取り組みだなと思ひました。ダイバーシティ&インクルージョンということていろいろ取り組みされてることが非常によくわかつたんですが、セミナーガイドを見ると、あまり伝わっていないところが残念だと思ひました。

セミナーガイドは、すごくいろんなところに配架されています。ひとはくを宣伝する媒体としてすごく部数が撒かれているのだらうと思ひますし、これをもってひとはくとはなんぞやということてすごく語る媒体でもあるなと思ひますので、D&Iフレンドリーだぞという事が全然伝わらなくて、すごくもったいなと思ひて先ほどから拝見してました。

おひとり、韓国語対応可能ですと書いてくださっている研究員もいらつしやいました。具体的に合理的配慮、お願いしますと言われたら、(ひとはくは)しなきゃいけない立場でおありなので、(ひとはくに)来られたら、どんな方でも受け入れていただけるという安心感はあるんですが、実際本当に来たら、車椅子で来たら、どんなふうな対応をしていただけるんだらうとか、ちょっと耳の聞こえが悪いんだけどもどういふ対応をしていただけるんだらうとか、そういうものがもうちょっと具体的にわかるようなものにしていただけると、ちょっと二の足を踏んでいる人たちに対しての呼びかけにもなるのかなと思ひます。

先ほどのオハナフェスタみたいteすごく活発にされていることが、何かちょっと(セミナーガイドと)リンクされてないteことにもったいなさを感じたので、ぜひ

来年度以降、セミナーガイドでの反映も含めてご検討いただきたいなというふうに思いました。

議長) ありがとうございます。いろいろ配慮はされてるかと思えますけれども、来年度に向けて、またご検討願えたら良いと思えますけれども。何かちょっと補足的に説明されることがありましたらお願いできますか。

博物館) 生涯学習課です。先ほどお話のありましたセミナーガイドについては、当館には 31 名の研究員がおりますので、いわゆるセミナーの中でも、一般セミナーといわれるものを集約しているところです。

委員の皆様方にはお配りはできておりませんが、当館で行っていますイベントについては、別途、チラシの方を用意しております。

特にそちらに関しては、どういった方のご参加をという対象も明記しております。

先ほどのお話の中での車椅子の方や障害の方のご利用について、お車で来館される場合については、当館の譲り合いの駐車場をご利用いただくこと、また、ベビーカー、車椅子等については、4 階並びに 3 階の出入口、またエントランスホール、コレクションナリウムにも設置しておりますので、事前にご連絡をしていただくと対応することができるよう準備しております。

これから当館をご利用していただく方を広く考えたとき、そういったご利用についての告知をもっとしていく、効果的に行っていくということが必要なと思っております。貴重なご意見いただきましてありがとうございます。

議長) 他いかがでしょうか。今年度の報告について。

委員) ありがとうございます。すごく本当に様々な活動されていて、セミナーもすごく毎年数されている。素晴らしいなと思います。

先ほどみたいに研究職の方が、ご自身の研究の他に、こうやって具体的に地域の方と直接つながるような活動をされてるのも素晴らしいと思いました。

資料を拝見してひとつ気になったのは職員数のところで、会計年度任用職員の方がかなりの割合いらっしゃると思うんですけれども、この方たちは普段どんなお仕事をされているんでしょう。

博物館) この会計年度任用職員は、総務課、生涯学習課、それからそれぞれの研究室がございますが、総務課であれば 管理部門の補助をしていただく、研究部の会計年度任用職員であれば各研究員がやってる研究の補助をしていただく。一概に会計年度任用職員ですが、配属先によっては、お手伝いいただくことは様々なこととなります。

委員) ありがとうございます。研究の補助は、それぞれの専門の研究の補助をされてるということで、今回のフェスタとかされるとやっぱり、伝える人というつながり、研究職と利用者をつなぐ人という存在で、すごく大事なんだろうと思いますが、そういった役割をされている方もいらっしゃるのでしょうか。

博物館) 確かにそういうつながりということはすごく重要だと思います。

ひとはくの場合、研究員がそれを担ってる部分があります。普段は資料整理とか研究の補助とかをしてもらっていますけれども、イベントの時にはいろいろ手伝っていただきますので、その場では非常に、一般の方々との間を繋いでいただいているなどということはありません。

フロアスタッフという方もいて、それは外部人材、また違う雇用形態なんですけれども、その方々が一番、館と一般来館者をつなぐ役割をされていると思っています。

委員) ありがとうございます。

どうしても自分の仕事が気になってしまって、私も博物館で、教育普及の研究員として今雇われているものですので、そのエデュケーターとかコーディネイターとか、そういった一般に呼ばれる職種の方はいらっしゃるのかなとちょっと気になりました。そういった方を常勤でずっと置くこともこれから考えておくのが大事になってくるのかなというふうに思いました。

議長) 今の事務局の説明では、フロアスタッフは職員数に入っていないわけですね。

博物館) 我々フロアスタッフと呼んでおりますが、業務委託をしております。来館者の案内ですとか、フロアスタッフさんも催し物を企画してやってもらったりというも含めて、外部委託をしており、この職員数には入っておりません。

議長) 先ほどの地域とつながりということが非常に大事なので、そのあたりのいろんな情報共有がうまくなされているのかなということが気になってきました。

館長) ガードマンも、外部委託。普通の博物館みんな職階別にいてはる。博物館みんな、外注の人も日々雇用の人も全員参加型の親睦会をやっており、すごく良いコミュニケーションをしています。全部一緒っていう形でしているので、そこらへんはご心配ないと思います。

議長) 皆さん、コミュニケーションで頑張っておられるっていうのは、非常に大事か

なと思います。

博物館) 後でもご紹介するんですが、Kids キャラバン、エコロプロジェクトっていう子供さん相手の、保育園、幼稚園等に出かけていく事業があるんですけど、それが非常に大きなアウトリーチになっておりまして、そういう間に立ってくれるような、新しいスタッフ、人材、エデュケーターというんでしょうか、若い女性が3人配属されています。

アウトリーチで幼稚園に出かけていくような事業を考えたときに、そういう人材が非常に重要だということは、館内でも、実感しているところでございます。できるだけそういう人材を取りたいというふうに考えているところです。

今言ったスタッフは、会計年度任用職員の中に入っています。

委員) 今研究員の先生方のお話がでましたので、ちょっとそれに絡んで質問させていただきたい。先ほど地域と連携した屋外空間における博物館活動の報告があって、本当に素晴らしいイベントを数々されているなと思っておりまして、そういったものもすべて研究員の先生方の多様性というものが、ひとはくの魅力として最も大きいんだろうなと私自身は理解しております。

ただその一方で、どんどん日本で人口が減っていく中で、今後も持続的に継続して、将来にわたってその多様な研究員の先生方を確保していかれるために、何か取り組まれていることとか取り組もうとされていること、もちろん博物館独自でできることというのは限られているのかもしれないんですけども、いかに多様性を持ったプロフェSSIONナルの皆さんを集めていかれるおつもりなのか、というのを教えていただきたいと思います。

博物館) ご指摘いただきましたように当館の強みはやはり研究員の多様性だと思っています。それはもう我々としては、確保していきたい、続けていきたいと思っています。もともと、もっと研究の人数は多くいたんですが、県の行革等もあり、だんだん人数が減っておりまして、現在31名ということになっています。31名はもう絶対死守したいですし、できれば以前のようにもう少し人員を増やしていけたらいいなと思っておりますが、なかなか難しい状況であります。

研究員も定年退職がありますので、その時には、その次にはどういう分野の研究員を採用すべきかっていうことを議論して、時代に合う形で採用していこうと、そういうふうな取り組みをしております。

館長) 委員さんが言われていますように、まさにここの博物館の命綱で、ここを設立するときの準備室長 伊谷純一郎先生という、この次のページに書いてある先生。こ



大体 15 からそれぐらいですね、20 ぐらいですね外部資金。それから、ヨーロッパに行きますとオセアニア、ニュージーランド、オーストラリアと 8 割外部資金。アメリカでも 5 割ぐらいです。

そしたら日本はどないするんという議論があると思うんですが、日本は日本なりにこのままは何とかやっていけるような形にせんとしかたがないかなと。

ニューヨークのセントラルパークの外部資金を見たら 8 割ぐらいから外部資金なんですよ。そのうちの 8 割ぐらいが日本企業が出してるんですね。

日本企業は国内ではなかなか出してくれないっていう問題点があります。そこらへんまたぜひ皆さん方の協力を得て、しっかりと外部資金を入れてもらうことを考えないといけないなと思っております。

(議長) この収支状況というのは、確かに今ご指摘があつように次年度の活動内容であるとか、要は今の外部資金も含めて、根拠になる数字というのは非常に大事かと思っておりますので、次年度以降少し可能であれば、そのあたりの説明も願えたらいいのかなというふうに思いました。他はいかがでしょうか。もしなければ、また後でもお伺いしたいと思っておりますので、次の議題に入りたいのですが、よろしいでしょうか。

そうしましたら、次に本日の議題ですけれども「令和 6 年度ひとはくの主な事業について」説明をお願いします。

#### —令和 6 年度ひとはくの主な事業について説明—

議長) ありがとうございます。

では、令和 6 年度のひとはくの主な事業ということで説明いただきましたけれども、何かご意見とかご要望とか自由にご発言していただければと思います。いかがでしょうか。

委員) ちょっと先ほどの続きをさせてもらいたいと思います。

またすごく楽しそうなセミナーをたくさん開催されるなと思って見てたんですけども、新たな研究員の方々が入ってくる中で、セミナーのやり方みたいなフォーマットとか、トレーニングはされているのでしょうか。

というのは、この間聴覚障害の方へのサポートをしている方とちょっと話をしていて、例えばですが、何かを手元でやりながら説明を聞くということが聴覚障害の方にはできないとかですね、学習障害の方には、セミナーのプログラムがこういうふうに進みますよと最初に説明するとちょっと安心して参加してもらえとか、様々なインクルーシブなプログラムの型があるわけですよ。最初に、研究員の方々がそういうト

レーニングを受けることで、より汎用性のあるものになるんじゃないかなと個人的に思いました。

兵庫教育大学はそういう研究をされている専門の先生方がたくさんいらっしゃいますので、もしそういうことをされてなくてしたいと思われるのであれば、いろんな専門家の方のお話を聞くことで、誰にでもやさしいプログラムの展開が可能になるのかなと思いますので、もしご検討いただければと思います。

議長) はい、ありがとうございます。ご意見とういうことでよろしいか。何か取り組んでおられることがあればお願いします。

博部館) 今年度から館内で、ダイバーシティ&インクルージョンタスクフォースということで、各研究部から研究員を集めて、取組みを行っていきこうとしております。

ご意見の中であった新入研究員に対するレクというのが正直しっかりできていないということと、それに加えて、ご指摘のあったようないろんな分野への配慮、聴覚障害の方の話、多言語対応への話、或いは他の身体的に課題をお持ちの方に対する配慮のすべてを一気にできない中で、一つずつ解決したいなという思いで活動自体は始めております。

今年度の活動としては、特に多言語対応ということで、兵庫県国際交流協会にヒアリングしながら、そもそもインバウンドを私達の目的とするというよりは、在留外国人、まずは地域にいる外国語を母語とされる皆さんに、こちらを楽しんでいただくにはどうしたらいいかっていうことの研究を始めているということと、それから、もう一つが、身体的にハンディキャップのある皆さんということで、特別支援学校の遠足でこちらにご来館いただく方に帯同しながら、具体的にどういう課題がこの館内であるのかというような話を先生に伺いながら、私たち研究員のタスクフォースのチームと一緒に回るというような取組みを始めております。

その中で、具体的にはもうすぐ試行的に行いますけれども、博物館は基本的に飲み物を飲んじゃいけないのですけれども、身体障害のある方が定期的に飲まないといけなかったり、自閉的傾向があったら水が飲めないとちょっとパニックというかテンションがあがってしまうみたいなことがあるので、各階にそういう飲水できるようなエリアを推奨エリアとして設けようというような変更を行ったり、それ以外にもスタンプラリーのチェーン、車椅子だと届かないとか何か細々した課題もやっぱりたくさんあったので、そういうのを一つ一つクリアしながら、進めていこうということで初年度活動は終わっています。

議長) ありがとうございます。ちょっと別の課題ですけど、セミナーの事業というものをものすごくたくさんやられています、次年度もそういう計画なんですけれど

も、この連携のセミナーとか教職員とか指導者セミナーとか、いろいろあるかと思えますけれども、学校の教育とか社会的教育とかの関係で何かご意見とかご要望があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

委員) 教職員指導者セミナーにつきましては、定期的にご案内等いただくんですけど、実態として職員が参加するというのはなかなか現状厳しいかなと思っていますが、実態として、どれぐらい参加されていますか。

博物館) 今、具体的な数字は持っていませんが、特に小中学校の先生方におかれましては、非常に多くご参加いただいております。

毎年ご参加の方もいらっしゃいますし、また、新規の方もいらっしゃいます。特に小中学校の先生が多いというところに関して言いますと、県立教育研修所の義務教育研修課の方の、いわゆる中堅教員の研修の位置づけに当館のプログラムがなっているというのがあります。

実は来年度教職員指導者セミナーの中には、高校の先生対象に「高等学校のプログラム」と新たに銘打った研究員の方もおります。

先ほど数字がわかりませんと申し上げましたが、今年度の受講者数としては181名の方にご参加いただいております。

特に夏季休業中ということもありますので、小学校、中学校、高等学校でいろいろ校内での研修会等を実施されているところもありますし、そういったところとの兼ね合いもあって、なかなか参加できないというところもありますけれど、セミナーガイドにもありますが、来年度は、教職員指導者セミナーと同様のプログラムを考えている研究員もいますので、その日程以外でもご参加いただくことは可能かなと考えています。貴重なご意見ありがとうございます。

委員) ありがとうございます。

夏季研修会等で参加させていただくということは本当に有効な手だったなと思っております。

現状ですね、子供たちの理科離れということはよく話が上がってくるんですけど、実は実態としてはやっぱり先生方、特に若い先生方の、小学校の先生方の理科離れが進んでいるのが実態ではないかと思えます。そこは非常に懸念しているところです。

やっぱりまず何が大変だというと、準備ですね。理科の準備をする、それから実験をするということにやっぱり慣れていない。さらに、このコロナ禍において、いろんな教材、ビデオ教材であったり、デジタル教材が非常に充実してきました。実験をしなくても結果が見えるようになりました。これに安易に走ってしまうという傾向がやっぱり増えたのではないかなというふうに感じています。

逆に言うと、このコロナ禍中で実は非常にたくさん予算が、小学校、中学校に入ってきました。人との接触を避けるという意味では、これまで班で計ひとつの実験をしていたのが、1人1実験できるようなそれぐらいの実験器具が、実は学校のなかで充実してきたという実態もあります。

これら学校の実態に沿った、授業研究であったり教材研究というところで、またご支援をしていただけたら、さらに充実してくるのではないかなというところで期待しております。

若干お話は変わるんですけども、今年度三田市においては、こちらの方で、理科生活科作品展を9月の末から5日間にわたって開催をさせていただきました。大変お世話になり、ありがとうございました。

子供たちの作品を展示させていただくことで、保護者の方も作品を見に来られて、それに合わせて他の資料等展示等を参観させていただくことができますので、今後も引き続きお世話になれたらと思っております。来館者数のまたの増加にも繋がればよいかというふうに思っております。引き続きよろしく願いいたします。

委員) このセミナーの冊子を見せていただいて、ただ私、理科が専門ではありませんが、そんな私でもちょっとワクワクします。

確かに子供たちの理科離れが進んでいるということなんですけれども、科学作品展をすると、本当に素晴らしい子供たち、小学校1年生から中学生まで、どこでこんなこと調べて実験してたんだというようなものすごい子供たちがたくさんいます。ということは捨てたもんじゃないなというのはずっと思っています。

ただいつも懸念にあるのは、経験のなさで、やっぱり自然の中でいろんな体験するっていうことがすごく薄れてるのではないかな。ですから、こういうセミナーがあったときに、実際に手に取って触れて感じてってというような体験を通して学びが深められたらなということは思っています。

ではそれをこの充実したセミナーをどうやって子供たちに広報するんだって言ったときに、例えば学校にチラシが来ても、先生たちはチラシを配布するだけです。もう本当にそれで終わっちゃうんですね。だから何かもっとほかに広報の仕方はないのかなあと。

今Web上でいろんな情報発信がたくさんされているんですけど、余りにも多すぎてここに届かない可能性もあるし、着実にどうやって届けたらいいのかなっていうのをまたいろんなところで議論していただければいいのかなと思っております。

うちに孫がおったら、これに行ったらどうってというような話もできるような楽しいことがたくさんありますので、また今後ともそういう子供たち、子供だけじゃなくて大人もワクワクするような企画をよろしく願いします。

議長) ありがとうございます。先ほどの高校との連携もありましたので、高校からお願います。

委員) 私、今の学校に今年で2年目になります。昨年着任した時に、本校の子供未来類型が、あおむしの絵本ありますね、それを人と自然の博物館のほうで企画いただいたと思うのですが、コラボしてやったポスターが学校にありまして、人と自然の博物館とこういう関わりがあるんだなあと思いながら、着任しつつ、そのあと全く何も関わりを持ってなくて、ちょうど今年、この協議会の委員に入れていただくというご縁をいただきましたので、このまま2年目を迎えてはいけないなというところから、夏休み前に生涯学習課様にちょっとお時間を頂戴して、いろいろお話を聞く機会を得ました。

やっぱりせっかく三田市にあるこのすばらしい施設、そういったものを子供たちに還元するっていうこれは絶対大事だなと思いました。それで、まず何かちょっとできませんかねってご相談したところ、実はそういった取り組みは、学校の方に広報してるんだけど届いてませんか、って言われて、そのチラシを見せてもらったら、来てるかもしれないけれども、私も何かちょっと記憶になくって、慌てて、学校に戻ったときに、締め切りは超えていたんですが、定員が満たされていなかったの、「これ、どう？」って理科の先生方に声をかけたら、実は「ん？」っていうところがあるんですね。一応声をかけてみますって言って（生徒に）声をかけたんですが、実際それについては、まったく各参加者が出てきませんでした。

その時に、確かにいい内容で、研究員の方が高校生に直接やり取りしていただいて、しかも無料で、もうこれはすばらしい取り組みなのに、なぜ高校の現場の高校生であるとか、先生方に届かないのかなっていうのは、ちょっとそこで、「ん？」と思うところはありました。

いろんなセミナーも組んでくださってるし、こんなセミナーガイドも立派なものがあって、いろんな取り組みされているのに、何か実際の高校生、理科離れも高校も進んでますけれども、子供たちにちょっと何かきっかけになる、面白いな、そして、そういった分野に進みたいと思わせるような広報が、これからいただけたらありがたいし、それは、私たちも実際、ひとはくがここにあることは知っていながらも、そこを興味をもって、いろいろホームページであるとか、セミナーガイドをしっかりと見ることができてなかった、それを先生方、私たちの反省としてしつつも、高校が何を求めているのかっていうことも、ぜひまた一緒に連携しながら、お互いに求めているもの、ニーズ、それから、ひとはくがそれに対してこんなことができますよっていただく中で、良い取り組みが、これから連携ができていくのかなと思っております。

これからも三田市内にある県立4校、また、しっかりと連携をとっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

議長) ありがとうございます。大変前向きなお話ですが、そのあたりいかがでしょうか。これからどんどん連携を深めていく必要があるかと思いますが。

博物館) ありがとうございます。今年度から、次世代タスクフォースというのがございます。タスクフォースができる前の年から、中学、高校、大学、なかなか普通に来館する中では少ない世代なんですけれども、そういう方々を対象に何かをやろうということによってしております。

次世代タスクフォースの担当研究員に一度電話をかけていただいて、一度会っていただくと話が早いかなと思います。

やはり紙媒体とか何か通じてではなかなか伝わらないものがあるのかなと思いますので、一度お会いいただいて、高校でどういう課題があるのかということもお伝えいただいたら非常に勉強になっていいかなと思いました。  
よろしくをお願いします。

議長) ありがとうございます。ひとはくの陣容も限られてますけれども、やっぱり、行動する博物館ですので、出向いて行って要望を聞くのも大事かと。

博物館) 補足させていただきます。

最近、高校は探究の授業で大分苦労していると思うんですが、かなりの研究員がある程度の割合で個別に学校から頼まれて探究コメンテーターとして行っております。それをやっていると大きく出ていないんですけれども。

三田祥雲館高校にも行ってますし、北摂三田高校の場合は6月くらいに、ホロンピアホールで発表会をしました。研究員が個別に入ってやっております。

「どう組みましょうかというより、まずコメンテーターとかで来てください。」と依頼されると、適切な研究員を生涯学習課で探します。それが、やりやすいと思います。三田西陵高校だと距離的にも近いし行きやすいところですので、年間最後の発表会だけじゃなくて途中段階でも応援してもらえないかと、そういう相談を生涯学習課を通じてしていただくのがいいかと思います。

委員) 今学校教育のお話が続きましたので、私は分類の中では社会教育ということでお呼びいただいているのかなというふうに思いますので、県立文化施設のネットワークの中で、コメントを何かいえることがあるかと。ご質問ということではありません。

兵庫県には人と自然の博物館、考古博物館、歴史博物館、陶芸美術館、県立美術館、それから横尾忠則現代美術館、ひょうごの津、7つの美術館ミュージアムがありまして、これまで地域や専門性が全く違うためネットワークがなかったのですが、今年度

から館長ネットワーク会議をはじめまして、実は、一昨日2回目がありましてお顔が見えるようになっております。

(ひとはくは) やはり最大規模であり、その30年間の活動の歴史と、日々アップデートされてる先ほど館長の方からありましたとおり、もう本当に他館の追隨を許さない素晴らしいマネジメントが行われていると改めて思いましたので、私どもやはり地域によってですけれども、県立文化施設のレベルアップというか同じようなサービスができるように互いに学びを共有していく必要がある。

特に今日伺ったようなD&Iといったようなことは、大きなミュージアムではできるけれど小さなところとか新しいところまでは至っていないところがあると思いますので、今日伺ったような情報をフィードバックしながら、また次年度も7月に予定されていますけれども、知事の肝いりのひょうごプレミアム芸術デーも、こちらも、単に1週間、県の文化施設を無料公開するというだけでない、もう少し、一歩進んだ形、今度で3回目を迎えますけれども一つの隠しテーマとしてやっぱりD&Iだなと考えてきましたので、もう少し意識化をしながら、県立ミュージアムのネットワークの中でレベルをあげていけることができると良いかなというふうの一つ思いました。

二つ目は一昨日の会議でも少し話題は出ましたけれども、やはり阪神・淡路大震災から30年も近づいておりますし、奥能登の地震もありましたが、それだけではなくて全国的にやはり風水害が本当に非常に増えておまして、ミュージアムの世界では数年前の神奈川県川崎市民ミュージアムの水没が大変衝撃的だったわけで、ますますその水害がミュージアムを襲うということも、また、県立美術館などは海に本当に面しておまして、台風が来ると大分水が上がってくるという切実な状況がございますので、そういった災害対策に関して、やはり県内のミュージアム内のネットワークというものを構築していきたいし、専門性という上でも、ますます人と自然の博物館様にご指導いただくことが増えるのではないかとというふうにも考えました。今後ともよろしく願いいたします。

議長) ありがとうございます。

県立博物館のネットワークとか防災上でのネットワークとかいうお話だったと思いますけれども、特によろしいですか。人と自然の博物館において防災について今もすでにやられているんじゃないかと思えます。継続していろんなネットワークを進めていただければと思います。

委員) このひとはくセミナー倶楽部についてちょっとお尋ねしたいんですけれども。

何か連絡の手続きが簡単になったり、メルマガの配信などをされるという特典があるとここに書いてあるんですけれども、これ以外に例えばリピーターズパスとか、あとは友の会のようなものとか、リピーターズパスなんかはちょっとお金がかかると思

いますが、そういったもので何かひとはくのリピーターを増やすとか、1つのリピーターズパスを購入すればセミナーが少し割安になるとか、何かそういう応援団的なリピーターを増やす取り組みなどは、今後活用されていくのかなというふうに思いまして、質問いたしました。いかがでしょうか。

博物館) ひとはくでは、友の会は特に結成していなくてセミナー倶楽部という形となっています。またサービスについては生涯学習課から説明いたしますが、あまりそういう意味ではリピーターを、というような具体の対策はちゃんとできてないかなと思います。

割引については、そもそもが安いので、これ以上割り引くと、例えば入館料については、高校生まで無料になっていますし、それからセミナーの方はカツカツでやってます。セミナーの方は県の予算があってセミナーをやっているのではなくて、セミナー実行委員会という形で、受益者からお金をいただいてそれでセミナーを実施してるというように、県の予算は全くついてません。ですからこれ以上割引は無理だなと思ったりします。セミナー倶楽部について生涯学習課から説明します。

博物館) 生涯学習課です。セミナー倶楽部につきましては、先ほどお話の中にありましたけれど、セミナーへの手続き申し込みが簡単になります。会員になられましたら、簡易番号を発行させていただいて、今現在 3800 名ぐらい、登録いただいている方があります。

特にメールマガジンという形で博物館の情報とかをメールでお送りさせていただいたりとか、また、皆様の手元にございますけれど、セミナー倶楽部会員になられましたら、こちらを新しく1年度分はお送りさせていただくという形になります。ホームページの方にもそのあたり掲載しております。

ただセミナー倶楽部に登録されてる方、また新たにセミナーを受講される方もそうですけれども、この研究員、押しの研究員っていう形で、ご参加される方が非常に多いです。

昨年もこの方来られてましたけれど、この研究員に今年もご参加いただいているんですねって、時々そういったセミナーにご参加の受講者の方のお話をお伺いしますと、この先生のお話を本当に、今年もまた聞きたいんだっていう形で、来ていただいていますので、リピーターとしては増えてるんです。

これからの課題としては、新たなセミナー受講者、受けていただく方を何とかお声掛けできたらいいなっていうところを進めていけたらと思っています。貴重なご意見ありがとうございます。

委員) このセミナー関係ですね、教職員指導者セミナー、一般セミナーもですが、そ

の受講料って極めて良心的な額だと思うんですよね。僕も末っ子はまだ小学校5年生、たまに連れてきて遊ばせてますけれども。

本当良心的なんですけれどもやっぱり将来に向けて考えると、もうプラス100円でも200円でも、それが受講料の中に含めるのが難しいようでしたら、運営協力金みたいな形で少し入れていただいて、それを上手に内部留保していくとか、貯金が難しければ基金みたいに積み立てていくとか、何か上手なやり方を考えるといいかなあと思いました。

さらに言うと、D&Iは極めて非常に大事なんですけれども、このご時世なんで、もう少しオンラインのラインナップが整っててもいいんじゃないかな。教職員指導者セミナーもリアルじゃないと伝えきれないお話もたくさんあるかと思いますが、そのインクルーシブみたいなことを考えると、物理的にも経済的にも時間的にもなかなかここへ来れないっていう先生方、やっぱりいると思う。

そういう意味では、もう少し小刻みにオンラインでの講座だとかそういうのも、ラインナップとしてあってもいいんじゃないかと思いました。

あともう一つだけ、オンラインみたいなことを考えたときに、その中期目標の中でも、デジタルアーカイブ化の強化とのくだけりがあるんですけれども、これは本当に、今大事な、博物館っていうか、いろんな美術館、歴史資料館を含めて、とても重要だと思って、博物館法改正のときのワーキンググループの中でも、バーチャルミュージアムみたいな言葉があってそのリアルなミュージアムとバーチャルミュージアムのハイブリッドのミュージアムをやっぱり目指すべきだみたいなくだけりがあって、これって大事だと思って、ですと、この5ヵ年計画の中で、ひとはくのストックでいうと、200万点以上あるみたいなんですけれども結構デジタル化できてるんでしょうけれども、そのデジタルデータの登録点数が現時点でいうと17%ぐらいの進捗率、これって、このコロナを経てちょっと急がないといけないジャンルじゃないかなと僕自身は思っています。

最後提案ですけれども、やっぱりデジタル部門みたいなものをこの組織の中に設けるべきじゃないかなと思っています。それはマーケティング及びマネジメント部も、各部門を横串でつなぐような部門なのか、何か専門の人材を何とか確保して、まさにDX化ですね、博物館DX。いろんなところで私もちょっとお手伝いしていますけれども、そこは避けて通れないんじゃないかなと思って。

何かそんなことを館として、やっぱり真剣に考えていくべきじゃないかなと思っています。

議長) ありがとうございます。ハイブリッド博物館を目指すというようなご提案をいただきましたけれど。事務局の方、特にそういうことに関して、ご発言よろしいですか。

博物館) コメントありがとうございました。

当館、一昨年新しくコレクションナリウムという新収蔵庫を建てましたけれども、そちらの方にスタジオを用意してございまして、植物の標本は、およそ半数の 25 万点はまだすでに画像化を完了しております。今ちょうど情報システムの更新をしております。そこで、植物の標本の 25 万点のうち、レッドデータに載っているような希少種、生息地保護をしなくてはいけないものを外した画像に関してはWebで公開できる見込みになっております。

ここに今期中期目標に掲げておりますのは、当館は様々な資料を持っておりますので、それ以外の方も積極的にデジタル化を図っていこうということで目標化しております。

ただ、分野によって資料の形状ですとか、撮影手法とかやっぱりどうしても変わって参りますので、各分野試行錯誤しながら、それでも効率的な方法を探りつつ、今デジタル化を進めている状況かなと思っております。

おっしゃる通りで、デジタルアーカイブ化が博物館法改正によって努力義務になりましたので、積極的に各館とも取り組んでいかないといけない課題だとは認識をしております。どうもご意見ありがとうございました。

委員) 今、情報発信の話とか、新しいセミナー参加者の開拓ってお話があったので私からも思ったことを。

私、京都に住んでるのでちょっと距離があるので紙媒体よりはウェブサイトをよく拝見させていただくんですけども、多分来たことがない人にとっては、ウェブサイト、ホームページが博物館の顔ということになると思うんですが、ひとはくがこんなに楽しい場所だということ、ちょっと今のホームページからだ正直伝わりにくいなっていうことを思っているところでありまして、多分今のウェブサイトは 10 年 15 年ぐらい運用されているものだと思うんですけども、今後リニューアルの予定があるのかなと。

セミナーとかも今、紙媒体ですと分野ごとに調べられたり日付ごとに調べられたりとかの仕組みになっていますが、オンラインであれば、そこに対象年齢から検索できるとか様々なフックから検索できるように複数の設定もできますので、もし、将来的に何か改修される予定があれば、その対象年齢、私を対象になっているとか、私の子供がこれ参加できると、そういう調べ方もできるようになるとすごく参加しやすくなるのかなというふうに思いました。

博物館) ありがとうございます。企画・調整室です。ウェブサイトの更新ですとか、あと、他の委員にもご指摘のあったセミナーガイドのデザインとかレイアウトについ

ては、今回の事業計画の中には明確に入れていないんですけれども、来年度から、これまでのD&Iの議論とか、新しい社会の情報発信の仕方ということ等を踏まえて、効果的な博物館の情報発信の方法を考えていくということは、進めていこうかと考えています。

具体的に、来年度ホームページをリニューアルするとかということはないんですけれども、今の時代の要請に沿った広報の仕方とか、デザインであるとかレイアウトであるとか、ちょっとこれを機にリニューアルしないといけないなということは館内でも議論してまして、そういったことは来年度進めていくようにしております。

博物館) ホームページについてはもうご指摘の通りです。新規開拓ということでは、キャラバン事業全般が実は新規開拓となっています。いろんなイベント等に出かけて行ったりして、実はこんなでかい施設が三田にあるんですよみたいなことを言うと、また行こうかみたいになったり、それから幼稚園にめちゃくちゃ行ってますけれども、その時に、チラシを配って、(チラシの)端を切って(博物館に)持ってきたらシールをあげるよとかいうような形で、キャラバンに行く一つの大きな目的は、博物館に今度は来てくださいねと呼びかけること。そんなふうに、新規開拓を図っているところでございます。

議長) ありがとうございます。キャラバンの幼稚園のお話がありましたけれども、そのあたりでいかがですか。

委員) 先ほどの報告の中でもあったフラワータウンフェスタですとかオハナフェスタですとか、そちらの方も本当に親子での参加が多かったので、非常にすばらしい活動だなと思っています。

それからアウトリーチ活動、乳幼児についてはやはりアウトリーチ活動に期待を持つところなんですけれども、アウトリーチ活動については非常に目標の達成率も高く、令和6年度も充実した活動に期待しております。

それから、アウトリーチ活動は今年度と同様来年度もいろんなところで実施を予定されていると思うんですけれども、具体的な実施場所であるとか、或いは地域連携セミナーも南あわじ市、たつの市で実施ということになっていますが、これは計画の中でいろんな地域に回っていくという認識でよろしいでしょうか。今後どのような活動場所等のご計画があるのかお聞かせいただければ幸いです。

博物館) 地域連携については、地域連携セミナーというチラシを作っておりまして、だいたいの枠は作製しています。

具体的にいつするのもかもホームページ上であげているんですけれども、細かいとこ

ろは抜きにしてねらいなんですけれども、かれこれ歴史をたどると 15 年ぐらい前、新展開ということでキャラバンを始めたんですが、その時は各地域担当を決めて、たとえば姫路、たつの、次はこの 2 市町という形で行っており、宣伝効果があったのですが、毎年地域が変わるため定着しにくいことがありました。今回行きますのは、すでにある程度付き合いのあるところを軸にして 3 年間ぐらいの地域設定でおつきあいを試しにやってみましょうというのがねらいです。

たつののケースでは、高校生では、龍野高校が会場として貸してくれるという話が来てまして、その地域でいろんな施設と連携するというねらいでさせていただいています。

来年度のキャラバンの予定がどんなものかとのご質問ですが、小学校に関しては、実は兵庫県の教育弘済会というところから、自分のネットワークで毎年 10 件くらい話を持ってきてくれる。それは経費もそちらでの対応でしております。

それ以外もパラパラ入ってくるので、年を明けてみないとどこから話がるのかわからない部分があります。商業施設とかもあります。すでに入ってきているところで、図書館からちらほらきているんですけども、図書館は比較的やりやすい。司書の方が割とこちらのコンテンツを上手に図書館の方で用意してくれます。そんなところでどんどん広げていこうかと考えております。

委員) セミナーとかすごいなと思ったんですけども、対象年齢が中学生以上とか小学生高学年以上が多いかと思うんですけども、私たちもいろんな公園でいろんなイベントを企画するんですが、なかなか小学生以上って集まらない現状があります。やはり土日習い事があったり、受験されたりとかっていうので、今、ちょっと乳幼児向けにイベントをシフトして、かなり低年齢で自然体験をしていただくことを企画して、集客しているところですけども、そのあたりで小中学生っていうのは、集まっているのかなっていうのと、どういう工夫をされてるのかっていうのが一つ気になりました。

あと一つ、ちょっと参考事例で恥ずかしいんですけども、私たちそんなに出ないのあれなんですけれど、去年ぐらいから商業施設さんから結構お声掛けいただくようになって、私たちと一緒にイベントをやりたいとおっしゃっていただくことがあって、先月まである商業施設さんのイベントで展示させていただいたんですが、その時間聞いてわかったのは、自分たちが思ってるほど私たちのことを知られてなかったっていうのが結構実感して、地域で私たちのことは結構有名だったので知られているのかなと思ったらそうでもなく、行ったこともなく知らなかったっていうのを結構言われたので、やはりそういう場面に出ていくと結構わかることもあるんだろうなっていうことを感じました。

ですので、小中学生を呼ぶにはどういう工夫されてるのか教えていただけるとちょ

っと嬉しいです。

博物館) 小中学生といっても(対象が)非常に広いんですけども。

小中、小学校低学年以下ぐらいの方々には、毎月、次年度も Kids サンデーっていうのを第1日曜日にやっておりまして、合言葉のように第1日曜日に来ていただいたら、子供さんが楽しめるプログラムあがりますよということでお誘いしたりしています。

これは Kids の推進室がやっているんですけど、子供さん向けをできるだけその日に集中して、他の研究員も意識してやっていることがございます。各種研究員が企画するセミナーの中でも、特に中学生あたりを対象にしたものが少ないということも研究員にも周知されていて研究員の方でも中学生のためのセミナーを対象として絞ってやるというようなことを工夫したりもしております。

博物館) 小学校にキャラバンで行くときに(効果を探るための方法として)シール券を配っています。子供が家に帰って面白かったって言うと、(人と自然の博物館に)それを結構持って来てくれます。場合によっては、学校の先生が反応して来てくれます。そういう意味で、違う場所に行くと違う反応がでてくるので、そこでつかまえた子たちに来てもらうにはどうしたらよいか、いろんなそういうことをやりながら、というのが次のしかけどころだと思います。

中学校は非常にづらいです。中学校に1度展示とか行きたいなと思っていますが、授業と違って、イベントをカリキュラムに突っ込むってなかなか大変らしくて、よく中学校の理科部会の発表会とか、そんなときに行くと結構効果があるかと思っていて、中学校にいろいろさせてもらおうと非常に嬉しいし、意識はしているんですが、なかなか体系的にできていません。

委員) どうもご説明ありがとうございます。一言だけコメントさせていただきます。今日お話をお伺いしまして、改めて強く感じたこととしまして、ひとはくの非常に大きな強みというのは、やはり自前で人材育成や人づくりができることではないかなというふうに思いました。

来年度の事業の中でも、化石の発掘の人材育成ですとか、地域連携セミナーをされていくっていうことだったんですけども、こういった人材育成して、その方達と一緒に地域づくりができる、地域貢献につなげられるってところが、非常にすごいことやおられると思うんですね。

ひとはくの場合はこれ、さらさらっとやれている、されているんですけども、そんなに簡単にできることではないんじゃないかなというふうに思っています。

私、兵庫県の自治体のそういう社会教育委員なんかも務めている関係で、この郷土

資料館の再生というようなことも議論に入ってます。その中でも、やっぱり人材育成が必要ってということが議論としては出てくるんですけども、ノウハウがないとか、どうやってやっていけばいいのかわからないというようなことが意見として出ております。

そういった中で、すごいことされてるんですけども、中期目標の中の重点目標で担い手の育成ってところの連携活動団体数なんか見ると、まだ少し達成率は足りていないというご説明がありました。こういった数値だけを見ると、実態っていうのが本当にわからないと思うんですね。ですので、本当にこういう社会教育施設の欠かせない使命の一つである人材育成っていうのを、ひとはくがトップランナーとしてこれだけやっているっていうことをですね、もっと強く示していただきたいというふうに今日は感じました。

こういった人材育成をやっていく前提としてやはり、多様な分野の研究員の方がいらっしゃるっていうことが、必須だと思います。

先ほど他の委員の方からもご指摘がありましたけれども、ぜひここを今後も確保していただきたいというふうに思いましたし、あとこういったエデュケーターですとかインタープリターの方を育成するには、やはり予算が必要だと思いますので、その確保っていうことをこれからも強く進めていただきたいというふうに感じました。以上です。

議長) はい。ありがとうございます。

先ほど報告のところで、重点目標2の報告がありましたけれども、ここも連携団体数とか連携事業実施件数とか非常に頑張っておられるところだと思うんですけども、ここを通じて、今委員のお話を聞くと、要するに、いろんなレベルの担い手があると思うんですけども、そういう育成された方がどの程度数字としてでてきているのかという、そこまであげてもらえると非常に博物館がやっているなあというのが非常に見えるんじゃないかな。

委員) そうですね。この指標の中でも、人材育成した結果としてですね、どういう地域貢献に繋がっているのかっていうことが少し見えづらい指標になっていると思いましたが、そこをアピール、ぜひ今後していただきたいなというふうに思いました。

委員) 質問はございません。コメントになりますけれども、いろんなセミナーとか含めて大変充実した内容で展開してらっしゃるといのが率直な意見でございます。それと常々教育研究等に携わられていまして、大変高い研究レベルにあるということ、私、認識しております。

ぜひそれを子供から高齢者の方まで還元いただけたら、より魅力が倍増するのかな

と。もうすでにしていただいていると思いますけれども、期待したいと思います。

議長) どうもありがとうございます。何か他にご意見があればお伺いしたいと思います。ですが、いかがでしょうか。

そうしましたら、積極的にいろいろご発言いただきましてありがとうございました。大変長時間になりましたけれども、これで議事を終了させていただきます。

皆様ありがとうございました。